土木学会原子力土木委員会 リスクコミュニケーション小委員会
第 11 回小委員会　議事録

１．日時：2023 年 4 月 28 日（金）10:00-12:10
２．場所：Webex によるオンライン会議
３．出席者：奈良委員長、桑垣委員、武田委員、中村委員、堀口委員、松村幹事長、小長井原子力土木委員会顧問（オブザーバ）、蛯沢原子力土木委員会委員（オブザーバ）
４．資料
資料１　第 10 回リスクコミュニケーション小委員会議事録（案）（松村幹事長）
資料２　原子力学会リスク部会デルファイ調査実施概要報告（桑垣委員）
資料３　リスク部会デルファイ法調査結果の議論のための情報共有（蛯沢オブザーバ）
資料４　リスクコミュニケーション小委員会委員会報告書（案）（松村幹事長）

５．議事要旨
土木学会論文集への論文の投稿について、原子力学会リスク部会へのデルファイ調査結果について、リスクコミュニケーション小委員会委員会報告書案について、報告・確認、意見交換を行うとともに、リスクコミュニケーションの枠組みの導出や今後の活動について議論を行った。

論文の投稿については、土木学会へ原稿を 3 月に提出し、その後、査読結果などの連絡はまだ届いていないことが報告された。

原子力学会のデルファイ調査については、調査結果が報告され、原子力土木委員会の結果との比較についても合わせて紹介があった。また、原子力発電システム全体におけるリスクの取り扱いについての情報提供があった。これらに基づいて感想も含めて意見交換を行った。結果の相違は、調査対象の属性、分野、経験などによる影響であろうことが推測された。一方で、さらに細かい属性の分類による違いについては、データ数が限られているため定量的な分析は難しいとの意見があった。リスク部会と協動していくことで、一般の方に原子力発電のリスクコミュニケーションができる、ワークショップにより協動の方向性を議論するのがよいなどの意見があった。今後の予定として、まずは調査結果のリスク部会幹事への報告と協議、原子力土木委員会への説明を行い、協動の方向性について議論する場を設けるのがよいとの意見があった。協動の方法としては、連携しつつそれぞれの組織が独立で活動する案や、合同で活動していくのがよい、原子力のリスクと便益についても扱うのがよいといった意見があった。引き続き議論・検討していく。

委員会報告書案については、目次構成、報告書の内容についての説明がなされ、特に、リスクコミュニケーションの枠組みと今後の検討の方向性についての意見交換を行った。リスクコミュニケーションの 5 つの要素に基づいた枠組みが暫定案として考えられること、課題として目的をより拡張するための「相互作用」モデルへ転換させる支援・仕組みの検討

が挙げられることについて、概ね合意が得られた。その他、原子力学会との連携をより強調してはどうかといった意見、安全目標の数値設定については海外と日本の規制の考え方は異なるなどの情報提供があった。枠組みの暫定案については、今後、次期小委員会において議論を深めていく。委員会報告書案については5月中完成を目途に修正作業を進めていく。

6. 今後の予定

原子力学会へのデルファイ調査結果については、リスク部会幹事への報告と意見交換を行い、それを踏まえて今後の活動の方向性を考えていく。委員会報告書案については、修正意見を2週間後（5/12）までに幹事長へ連絡し、以降はメールにて修正作業を進める。インタビュー調査については、次回以降の小委員会で実施方法や対象等の具体を検討していく。次回は7月中の開催を予定する。

以上